

## 巻頭言



茨城県知事 大井川 和彦

# 積極的なグローバル展開と 多様な人財が活躍できる茨城づくり

時代は今、気候変動問題や米中摩擦の激化、AIの進歩による社会構造の大幅な変化、さらには人口減少など、これまでとは全く環境が異なる、予測できない「非連続の時代」を迎えています。この困難な時代を乗り越えるためには、前例踏襲や横並びなど、これまでの延長では通用しないものと考えています。

そうした中、茨城県では、「挑戦」「スピード感」「選択と集中」という3つの基本姿勢のもと、変化や失敗を恐れず新しい挑戦を重ね、本県の持つ潜在能力を存分に引き出すことにより、「活力があり、県民が日本一幸せな県」の実現に向け全力で取り組んでいるところです。

特に、人口減少に伴い国内市場の縮小が懸念される中、本県を持続的に維持・発展させていくためには、新たな市場を求め、積極的に海外に打って出ていくことが不可欠です。そのため、グローバル展開に特化した庁内組織を設置するとともに、公益財団法人いばらき中小企業グローバル推進機構を設立し、県産品の輸出拡大と海外販路の開拓を強力に推進してまいりました。

その結果、農産物の輸出額は私が知事に就任する前の約6倍まで拡大したところですが、今後も、輸出先進地域と肩を並べられるよう、取り組みを一層強力に推進してまいります。

また、ポストコロナを生き抜くためには、女性活躍はもとより、性的マイノリティや外国人など多様な人財が活躍できる体制整備が必要です。そのため、国に対しては、県内産業を支える優秀な外国人材を確保するため、在留期間を上限なく更新でき、熟練した技能を要する特定技能2号での受け入れが可能な分野の拡大や、介護福祉士国家試験を受験する際、日本語のほか英語などの外国語を併用し、選択可能とすることなどを求めているところです。

さらに、海外の優れた人材や技術を茨城県に呼び込み、雇用やイノベーションの創出を図るため、「スタートアップビザ制度」を導入するなど、引き続き、対日投資の誘致にも積極的に取り組んでまいります。

今後も、コロナ禍で変わる価値観や消費者ニーズなど、社会のさまざまな変化を的確に捉えながら、果敢に挑戦を続け、産業の競争力強化や人財育成を通じ、茨城県の活力をさらに高め、県民が日本一幸せな県の実現に努めてまいります。